

第2回懇談会で出た意見の概要

化学物質による環境リスクについて

- P R T R法が始まってから最初は量だけが注目されていたので、トルエンなどを多量に排出している企業は辛いところもあったかと思うので、ぜひ化学物質に対するリスクというものを確立して浸透させてほしい。
- あらゆる化学物質についてリスクがほぼ確実な数値で表せるようになれば、それが希望であると思う。
- 最終的に欲しいのは自分自身に対するリスクに関する情報である。そのリスクを算出するまでの過程を手をこまねいて見ていただけないので、今ある情報で何がより高いリスクをもたらす可能性があるかを少しでも明確にして、そこから順番に対策をとるべきである。
- 対象となる工場で規制基準を超えないかということはやっているが、それは一部の企業である。リスクを数値として出せればいいと思うがまだ難しいので、懇談会などの機会をとおして少しでもわかっていただければと思う。
- 一般の方は、単体の化学物質として基準を超える、ということではなく、いろいろな排気ガスが混じりあった結果「空気が汚れている」と感じると思うので、そういう一般的な受け止め方を非常に大事にしていかなければならない。
- 一般的に化学物質のリスクが気にされていないと思うので、そういう方にもお話をしていくために、化学物質の濃度マップ作りが教材開発などに結びつくといいかと思う。

情報提供のあり方について

- 市民から見ると絵とか図で表現されているとわかりやすい。市民向けの情報の整備は、苦労してやっていく必要があるテーマである。
 - 広域範囲での化学物質の濃度マップはインターネットで見ることができる。
 - ローカルな地域でどうなっているかという情報が出てくるとリスクコミュニケーションがしやすくなる。
- 市民の方は無用な不安を持っておられることがあるので、その点を情報提供側はわかっていなければならないと思う。

○環境基準や指針値に近い値だと、それですぐに病気になってしまうと最初に思われてしまうとコミュニケーションはできない。

→環境基準の意味ということで情報としてさしあげるべきである。

→環境基準はそれですぐ影響が出るものではないが、目安としてその基準を守るように行政を進めていかなくてはいけない。

その他のご意見

○物質を開発するときにはメリットだけ見て開発するのではなく、デメリットも見積もる配慮が必要である。

○化学物質について人体実験はできないけれどもデータが取れるということを考えると、今後情報を蓄積していく上で、市民・事業者・行政だけでなく、早い段階で病院のデータを蓄積していったほうがいいのではないかと思います。

○アスベストのように出てきてから騒ぐことのないように、日用品など身近なことをもって提案して、多くの人に知って欲しいと思う。